

令和3年度 学校評価計画

今年度の重点目標と評価項目

七尾市立和倉小学校

1 確かな学力を身に付け意欲的に学び合う児童の育成										
重点目標	評価項目(具体的な取り組み)	番号	主担当	評価の指標	肯定的な評価の割合(評価方法)	実施時期	成果(○)課題及び改善策(▲)	7月評価	12月評価	
確かな学力を身に付け意欲的に学び合う児童の育成	学びの構えの育成	1	研究推進	【成果指標】 単元や本時のゴールの見直しを持たせることで、児童の学習用具(学習の構え8項目①持ち物5点セット)が整い、忘れ物をせずに登校している。	肯定的な評価の割合(児童・保護者アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○月にパッチリリトライの取組項目を明確にし、見直しを持たせ、さらにクラスでパッチリたまごをゲットするという可視化を行ったことで、児童への意欲につながり、成果がめられた。 ▲習慣がついたところまでは至っていない。個人差もあるため、今後声かけを行ったり、再度振り返りを行ったりして、学びの構えを習慣づけしていく。 教員アンケート: 192%	A		
		2	研究推進	【成果指標】 月ごとのパッチリリトライに取組んだことで、学習の構え8項目(②準備して休み時間③ベル学)の徹底ができています。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○1月の市の学力調査の結果から各学年の課題を明らかにし、全職員で共通理解し、授業改善を行うことができた。 教員アンケート: 100%	A		
		3	研究推進	【成果指標】 月ごとのパッチリリトライに取組んだことで、学習の構え8項目(④ピタパターの姿勢からはきはき遠事6天井等手アストプの約束)の徹底ができています。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○11月の市の学力調査の分析から各学年の課題を明らかにし、全職員で共通理解し、授業改善を行うことができた。 教員アンケート: 100%	C		
	確かな学力の育成	①学力向上ロードマップの活用による学力向上	4	研究提案	【努力目標】 学力向上ロードマップを可視化し、進捗状況を把握しながら改善を行っている。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○学力向上RMを職員室に掲示し、進捗状況を確認し、改善しながら進めることができた。 教員アンケート: 92%	A	
		②各種検証による授業改善	5	集計・分析	【努力目標】 学力調査・和倉検定等による検証結果を授業改善につなげている。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○11月の市の学力調査の結果から各学年の課題を明らかにし、全職員で共通理解し、授業改善を行うことができた。 教員アンケート: 100%	A	
		③意図的・計画的な補充学習	6	研究提案	【成果指標】 学力向上タイムスケジュールをもとに、全教職員で計画的に取り組んでいる。	肯定的な評価の割合(和倉検定結果) 合格者割合 A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	7月・12月	○自分の考えを表現するスキルとなるよう毎月書くかパッチリを行ったことで、書く意識が高まった。 ▲相手意識を持って表現することを意識させていく必要がある。 児童アンケート: 83%	C	
		①計画的な校内研修や要請訪問による学校研究の推進	7	研究推進	【努力目標】 研究により改善点を全体に共有して取り組んでいる。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○研究だけでなく発行し要請訪問での修正点を共通理解し進んでいる。 教員アンケート: 100%	A	
		②「授業が児童と向き合える一番の場」として「わかる授業」の推進	8	研究提案	【成果指標】 授業がよくわかると感じている。	肯定的な評価の割合(児童・保護者アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○ICTを活用し、可視化を工夫しながら、全員がわかる授業を進めている。 ・児童: 92% ・保護者: 90%	A	
		③「付たい力(自分の思いや考えを表現する)を明確にし、学びの意欲が持てる授業実践	9	研究提案	【努力目標】 自分の思いや考えを文や図でかくことができています。	肯定的な評価の割合(児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	○自分の考えを表現するスキルとなるよう毎月書くかパッチリを行ったことで、書く意識が高まった。 ▲相手意識を持って表現することを意識させていく必要がある。 児童アンケート: 83%	B	
		④「相互授業参観」による授業改善	10	研究推進	【努力目標】 相互授業参観後、参観した実践を自分の授業に活かしている。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	7月・12月	▲参観時では、参観できたが、その他の時間には参観する余裕がなかった。職員室でタブレットを活用する予定の授業を紹介し、参観できるようにしていく。 教員アンケート: 69%	C	
		⑤ICT機器の効果的活用とGIGAスクール構想の推進	11	情報	【成果指標】 ICT研修会やICTサポートの有効な活用を授業者に提案し、ICTの活用を進めている。	肯定的な評価の割合(授業での児童のICT活用) A: 毎日 B: 週3日 C: 週1回 D: 時々	7月・12月	○終礼にタブレット活用の成功例と失敗例を紹介し合う時間をもち、交流することができた。 ▲各学年で付たい力での活用を示す。 児童のタブレット活用: 毎日	A	

2 全教職員が共通の目標に向かって協働する学校										
重点目標	評価項目(具体的な取り組み)	番号	主担当	評価の指標	肯定的な評価の割合(評価方法)	実施時期	成果(○)課題及び改善策(▲)	7月評価	12月評価	
全教職員が共通の目標に向かって協働する学校づくり	組織的な学校運営	①主任会や各チーム等による課題把握と迅速な対応	12	教頭	【努力目標】 校長ビジョンの具現化に向けて、中・短期的評価を実施しながら、PDCAサイクルで工夫・改善している。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 十分取り組んでいる95% B: 取り組んでいる90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	7月・12月	○1学期の重点項目を明確にし、児童と共有しながら取り組んでいる。 教員アンケート: 100%	A	
		②報連相を密にし、一人で抱え込まない「チーム和意」の構築	13	教務	【努力目標】 小さなことでも報告・連絡・相談をし、その都度各種委員会を立ち上げ改善策を話し合っている。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 十分取り組んでいる95% B: 取り組んでいる90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	7月・12月	○風通しのよい職員室となっている。 ▲各種委員会を立ち上げる意識が薄く、その場で解決策を考えているので、委員会を活用していく。 教員アンケート: 100%	A	
		③「さ・し・す・せ・そ」危機対応と3S行動	14	教頭	【努力目標】 常に危機意識をもって、組織的に対応し、保護者への速やかな対応を行っている。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 十分行っている95% B: 行っている90% C: 十分とは言えない80% D: 不十分である	7月・12月	○報連相後、速やかに保護者への連絡を行っている。 教員アンケート: 100%	A	
教職員の資質・能力の向上	①積極的なリーダーシップの発揮	15	教務	【成果指標】 主任をリーダーとして教務部会を計画的に開催し、チームごとに課題からの改善策を出している。	肯定的な評価の割合(校務部会) A: 昨年度の反省点をもちに課題を明確にし改善策を出している B: 会の前に提案の準備ができています C: 昨年度の課題が把握されないまま提案している D: 前例踏襲を行っている	7月・12月	○主任を中心に主任会を定期的に開催し、昨年度からの課題や喫緊の課題について改善策を話し合っている。	A		
	②各ステージに応じた人材育成と若プロ・OJTの推進	16	教務	【成果指標】 若プロコーディネーターを中心に、年間計画に沿って若プロを実践している。	肯定的な評価の割合(教員アンケート) A: 計画通り実践できている B: ほぼできている C: 十分とはいえない D: 不十分である	7月・12月	▲全職員での研修は行っているが、若手のみでの研修会は開催できていない。 教員アンケート: 77%	C		
	③危機管理と服務規律遵守	17	教頭	【成果指標】 公務員としての立場を理解し、危機管理と法令遵守の徹底のための自己研鑽の場を設定している。	肯定的な評価の割合(校内研修・職員会議・終礼) A: 十分取り組んでいる B: 取り組んでいる C: 十分とは言えない D: 不十分である	7月・12月	○終礼や職員会議で定期的に服務規律について考える機会を作っている。 ▲校内研修で時間を確保して行っていく。	B		

教職員の働き方改革の推進	①働き方改革を意識した効果的・効率的な業務改善	18	教務	【努力目標】 業務内容を見直し、効果的・効率的な提案を行っている	肯定的な評価の割合（教員アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○会議のある日は短縮特別日課にし、時間を生み出すことができた。 ▲効果的な提案はできているが、1人がいくつもの業務を掛け持ちしており、会議が重なり負担が大きい。 教員アンケート：85%	B
	②業務内容の平準化	19	教頭	【努力目標】 業務内容を精選するとともに、繁忙期の業務分担への改善策を示している	肯定的な評価の割合（教員アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○複数で業務を担当することで、業務が分担できている。 ▲取組のゴールを可視化し、早めの取組ができるようにする。 教員アンケート：85%	A
	③定時退校日（月2回）最終退校目標時刻（19：30）の設定	20	教務	【成果指標】 定時退校日・帰校時間目標を示し、達成できているかどうか毎月把握し、達成できない職員の原因と改善策を示している	肯定的な評価の割合（勤務時間報告） A：十分取り組んでいる95% B：取り組んでいる90% C：十分とは言えない80% D：不十分である	毎月	▲おむね達成できているが、個人差が大きい。おむねの達成率も7月：30%までには帰校出来るようになる。 4月：54.2時間 5月：44.2時間 6月：50.4時間 7月：	C

3 自己有用感に裏付けされた自尊感情の高い児童の育成

重点目標	評価項目（具体的な取組み）	番号	担当	評価の指標	肯定的な評価の割合（評価方法）	実施時期	成果（○） 課題及び改善策（▲）	7月評価	12月評価	
自己有用感に裏付けされた自尊感情の高い児童の育成	積極的な生徒指導の充実	①生徒指導の3つの視点を活かした居場所づくりと絆づくりの未然防止	21	生徒指導	【成果指標】 学校や教室は安心できる場所と感じている	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○このクラスも落ちこぼれが居た。 ▲人間関係のトラブルがあったり、教師が仲悪くすることが多い。カウンセラーを活用したり、エフカンパニーを実施していく。 ・児童：94% ・保護者：90%	A	
		②「あたりまえのことをあたりまえに行う子」の育成	22	生徒指導	【成果指標】 先生は、間違った言葉遣いや行動をすると注意している	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○素直に聞ける子が増えている。教師の態度により、マスクの着用も怠らなくなった。 ▲聞く力が不十分。指導しても、聞いていない子もいる。 ・児童：90% ・保護者：93%	A	
		③「思いやり挨拶」の習慣化	23	生徒指導	【努力目標】 自分から進んで思いやり挨拶を行っている	肯定的な評価の割合（児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○代表委員会による声かけで、進んで挨拶する子は増えている。 ▲個人差が大きい。高学年を字本として広げる。 児童アンケート：90%	A	
	心の教育の充実	①自己有用感・自己肯定感を持たせる場面や機会の意図的設定	24	生徒指導	【成果指標】 自分は学校や友だち・家族のために役に立つことをしている	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○児童が主体になって取組を進めたことで、自己有用感が高まっている。 ▲その場で良さを認める声かけを心がけていく。 ・児童：88% ・保護者：84%	B	
		②地域学習や訪問活動などを通じた郷土愛・思いやりの心の育成	25	教務	【成果指標】 子どもは、ふるさと和意のことを大切にしたいと思っている	肯定的な評価の割合（児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○地域の人材を活用したり、地域を調べ学習をどの学年も取り、地域の良さを知る機会となっている。 児童アンケート：96%	A	
		③児童会及び縦割り活動の実践	26	児童会	【努力目標】 児童会や6年生を中心に全校が協力して活動を行っている	肯定的な評価の割合（児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○6年生が先頭に立って行事を進められるおかげで、下学年は安心して活動できた。 児童アンケート：90%	A	
		④地域の資源（人・物・金・時間・情報・ネットワーク等）の効果的な活用	27	教務	【成果指標】 単元を見通して、計画的に地域の資源を活用している	肯定的な評価の割合（学期ごとの地域人材活用） A：全学年それぞれ1回以上 B：全学年で3回以上 C：全学年で1回以上 D：活用していない	7月・12月	1,2年：いも苗植え 3年：和倉の良き発見 4年：和倉こども園訪問 5年：田植え 6年：海の自然観察	A	
		⑤保護者・地域の意見を生かした学校運営の改善	28	教頭	【成果指標】 アンケートや学校評価の結果や改善点を保護者や地域に伝えている	肯定的な評価の割合（学校だより・HP・学校評議員会） A：改善点まで伝え、地域の意見を反映している B：改善点を伝えている C：結果のみ伝えている D：伝えていない	7月・12月	8月予定		
		⑥ふるさと和倉を担う子の育成（横断歩道七尾モデル）	29	保健主事	【努力目標】 行事や学習・登下校時に交通安全教育を実施し、児童に横断歩道七尾モデルが浸透している	肯定的な評価の割合（教員アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○集会や交通安全教室で6年生が呼びかけを行い、広まってきた。 ▲全校で取り組めるよう、できている子を褒めていく。 教員アンケート：69%	C	
健康の保持増進及び安全管理	①「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的な生活習慣の推進と定着	30	保健主事	【成果指標】 早寝・早起き・朝ご飯の習慣が身に付くよう働きかけている。または身に付いている。	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○健康観察時に指導している。 ▲遅刻・欠食の児童もいるので、9月に保護者への啓発を考えた。 ・児童：92% ・保護者：92%	A		
	②体カアップ1校1プランやスポチャレいしかわへの積極的な取組	31	体育担当	【努力目標】 体カアップ1校1プラン・スポチャレいしかわに取り組んでいる	肯定的な評価の割合（教員アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○各学年体育の時間を活用して取り組むことができていく。 ▲各学年の達成状況を可視化していく。 教員アンケート：85%	B		
	③命を守るための安全教育・安全指導の推進	32	保健主事	【成果指標】 行事や学習・登下校時に防災教育や安全教育を実施している	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○事前指導を行った上で、計画的に訓練を行うことができていく。 ▲職員が予定しているときも避難機変に対応できるように訓練を行っている。 ・児童：97% ・保護者：93%	A		

4 家庭・地域から信頼される学校

重点目標	評価項目（具体的な取組み）	番号	担当	評価の指標	肯定的な評価の割合（評価方法）	実施時期	成果（○） 課題及び改善策（▲）	7月評価	12月評価
家庭・地域から信頼される学校	①地域の資源（人・物・金・時間・情報・ネットワーク等）の効果的な活用	27	教務	【成果指標】 単元を見通して、計画的に地域の資源を活用している	肯定的な評価の割合（学期ごとの地域人材活用） A：全学年それぞれ1回以上 B：全学年で3回以上 C：全学年で1回以上 D：活用していない	7月・12月	1,2年：いも苗植え 3年：和倉の良き発見 4年：和倉こども園訪問 5年：田植え 6年：海の自然観察	A	
	②保護者・地域の意見を生かした学校運営の改善	28	教頭	【成果指標】 アンケートや学校評価の結果や改善点を保護者や地域に伝えている	肯定的な評価の割合（学校だより・HP・学校評議員会） A：改善点まで伝え、地域の意見を反映している B：改善点を伝えている C：結果のみ伝えている D：伝えていない	7月・12月	8月予定		
	③ふるさと和倉を担う子の育成（横断歩道七尾モデル）	29	保健主事	【努力目標】 行事や学習・登下校時に交通安全教育を実施し、児童に横断歩道七尾モデルが浸透している	肯定的な評価の割合（教員アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○集会や交通安全教室で6年生が呼びかけを行い、広まってきた。 ▲全校で取り組めるよう、できている子を褒めていく。 教員アンケート：69%	C	
健康の保持増進及び安全管理	①「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的な生活習慣の推進と定着	30	保健主事	【成果指標】 早寝・早起き・朝ご飯の習慣が身に付くよう働きかけている。または身に付いている。	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○健康観察時に指導している。 ▲遅刻・欠食の児童もいるので、9月に保護者への啓発を考えた。 ・児童：92% ・保護者：92%	A	
	②体カアップ1校1プランやスポチャレいしかわへの積極的な取組	31	体育担当	【努力目標】 体カアップ1校1プラン・スポチャレいしかわに取り組んでいる	肯定的な評価の割合（教員アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○各学年体育の時間を活用して取り組むことができていく。 ▲各学年の達成状況を可視化していく。 教員アンケート：85%	B	
	③命を守るための安全教育・安全指導の推進	32	保健主事	【成果指標】 行事や学習・登下校時に防災教育や安全教育を実施している	肯定的な評価の割合（児童・保護者アンケート） A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：60%以上80%未満 D：60%未満	7月・12月	○事前指導を行った上で、計画的に訓練を行うことができていく。 ▲職員が予定しているときも避難機変に対応できるように訓練を行っている。 ・児童：97% ・保護者：93%	A	